

「筆でカク（書く・欠く）ということ」 のヒント・気づきのための9のこと

1. 筆は茶と白、書きやすいのは茶色の筆
 - イタチ毛、兼毛、羊毛の3つ
 - イタチ毛>兼毛>羊毛の順で書きやすい
 - 羊毛（ヤギ）は書くのが難しい、オススメはイタチ毛・兼毛の茶色の筆
2. 良い筆の4要素「尖（とがる）・斉（ととのう）・円（まるい）・健（すこやか）」
 - 茶色の高価な筆は「とがり（尖）」やすく、「ととのい（斉）」やすい
 - そのためハネやハラいが綺麗に出る
 - 羊毛はそれを自分でコントロールする必要がある
3. 三千円の筆と一万円の筆の差とは？徹底比較解説そして実際この筆を使っています
 - 見た目は一緒なのに、言うことの聞きやすさが違う
 - 「とがり（尖）」やすく、「ととのい（斉）」やすい
 - 実際に使っている筆のご紹介

「筆でカク（書く・欠く）ということ」 のヒント・気づきのための9のこと

4. 筆のおろし方と洗う時のポイント・日常使用に注意した方が良いこと
 - おろし方1、手でゆっくりとほぐすように
 - おろし方2、水の中に漬けておく
 - 大事なことは根本に墨が溜まらないようにすること
 - 墨を付ける部分は7～8割
5. カクとは書く＝欠く、そのための中鋒ということ
 - 書く、欠く、どちらも「カク」と読む
 - 引っ掻くような感覚で線を引くということ
 - 線の中心を筆の一番長い毛（命毛）が常にとおること＝中鋒
6. 技術を上げる効能、先が利かない、割れていてもある程度カバーできる
 - 中鋒の理解度が高まると、割れ気味の筆でもなんとかなる
 - 割れた穂先すらも巻き込んで（蔵鋒）にして書く
 - ハラいも筆をねじって命毛を集める

「筆でカク（書く・欠く）ということ」 のヒント・気づきのための9のこと

7. 羊毛はとても書くのが難しい理由と上手く書くコツ=それはそのまま筆法の奥義
 - 羊毛100%は命毛が無い?!だから恐ろしく書きにくい
 - 最大のメリット、墨の含みがものすごく良い
 - 羊毛を扱えるようになるとイタチ毛の腕も上がる（筆法を得るための矯正ギプス）

8. 中鋒の理解こそが筆の声を聴くことの出発点
 - 穂の部分がS字になっているか?
 - 筆管からレーザーが出ている感覚
 - 円転自在、穂先の状態を常に感じながら書く=筆の声を聴くということ

9. 命毛の通り道の「組みの強さ」「響き（韻）」を追究すること
 - 筆でカクということのおさらい
 - 1mmもない命毛の通り道を常に意識して書く
 - 1mmもない命毛の通り道の「線の組み合わせの強さ」「線のひびき」を常に意識して結体・結構を形づくっていくこと